

# 大牟田市立明治小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校周辺には、介護老人福祉施設、幼稚園・保育園、多目的交流施設、公園、病院等の施設がある。工場地域も抱えており、市のリサイクル施設やリサイクル関連企業がある。このような校区環境の中で、本校はSDGs 3, 7, 11の達成に向けて、エネルギー環境教育、福祉教育を中心にESDに取り組み、エネルギーや自然環境との関係性、ひとや社会との関係性を認識し、「かかわり」や「つながり」を尊重できる子どもの育成を目指している。

また、平成14年度より「持続可能な社会の構築に向けたエネルギー教育」の実践を行っている。生活科や総合的な学習の時間だけでなく、理科・社会科などの教科の時間においても、関連する単元でエネルギー環境の視点をもちながら、横断的・総合的な学習となるよう計画を立てて取り組んできた。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

	エネルギー環境教育		福祉教育	
1年	めいじと なかよし だいさくせん1 (緑のカーテンなど)	6月 生活	めいじと なかよし だいさくせん2 (幼保小交流など)	11月 生活
2年	めいじのすてき みつけたい (学校のまわりの探検など)	5~1月 生活	つくろう あそぼう くふうしよう (異学年交流など)	6月 生活
3年	めぎせ エネルギー博士	9~12月 総合	昔のくらしのちえを学ぼう	1~3月 総合
4年	くらしの中のエネルギー	4~9月 総合	みんなにやさしいまちづくり	10~12月 総合
5年	ぼくたち、私たち環境探検隊	5~10月 総合	ふれあいを広げよう	10~3月 総合
6年	エネルギーのまち 大牟田	9~12月 総合	未来への扉を開こう	1~3月 総合

## 3 特徴的な活動事例

### (1) ねらい

○自分たちの生活が多様なエネルギーに支えられていることやエネルギーの消費が環境に影響を及ぼしていることを実感としてとらえ、エネルギーを大切にし、環境を保全しようとする態度を養う。



○自分たちにできる省資源・省エネルギーについて考え実践することで、思考力・表現力・コミュニケーション能力を高める。

○高齢者や体の不自由な人をはじめとする身近な人々に目を向け、自分にできることは何かを考えるとともに、すべての人が安心して暮らせる社会を築いていこうとする態度を養う。

## (2) 主な実践

### ① 1年生「ひとつぶのたねから（緑のカーテン大作戦）」

生活科の学習の一つとして、緑のカーテンづくりに取り組んだ。3階のベランダまでネットを張り、「おはよう！」等、声かけをしながら日々の手入れに進んで取り組んでいくことができた。日なたと日陰の温度の違いや水をまくとさらに涼しく感じるなど体感することができた。



### ② 4年生「くらしの中のエネルギー」

単元の初めに、夏休みを利用して「エコワット」による消費電力調べと「ふくおかエコキッズチェックシート」の取り組みを行った。学校でも、エコワットを使い、電力の消費量を調べる活動を継続して行った。化石燃料を利用した発電や環境にやさしいクリーンエネルギーについて調べ学習を進めた後、「九電みらい財団」の体験型環境教育で温暖化の現状や森林の役割について学んだ。



### ③ 5年生「ふれあいを広げよう」

大牟田市の長寿社会推進室の方々による「認知症絵本教室」を体験し、認知症について考えたことやこれからの自分と高齢者の関わりについて意見交流をしたり、地域の施設見学に行き、高齢者と交流を行ったりした。さらに、調べ活動を進めた後、高齢者のために自分たちにできることをグループごとに考え、3月には実際にグループホームに出向き、高齢者と交流を楽しむ計画を立てている。



## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・総合的な学習の時間に学んだことを生かし、無駄なエネルギーをなくすため、学校全体で取り組みたいことを全校の前でアピールさせる時間を設定した。一人一人がちょっと気をつけることで世界は少し変わるかもしれないという持続可能な社会の構築に向けた前向きな思いをもち、自分ができることを継続して実践している。
- ・緑のカーテンづくりやエコチェックシートなど、地域や家族を巻き込んで省資源、省エネの活動に取り組んだり、GTを活用して森林や川の学習をしたりして、エネルギーと環境を一体としてとらえ、自然や環境の保全に対する意識を高めることができた。

### ○課題

- ・体験活動を通して課題や現象について知ることはできてきたが、今以上に子ども自らが、自分自身の課題としてとらえ、より主体的に調べたり実践したりすることができるような取り組みをする必要がある。